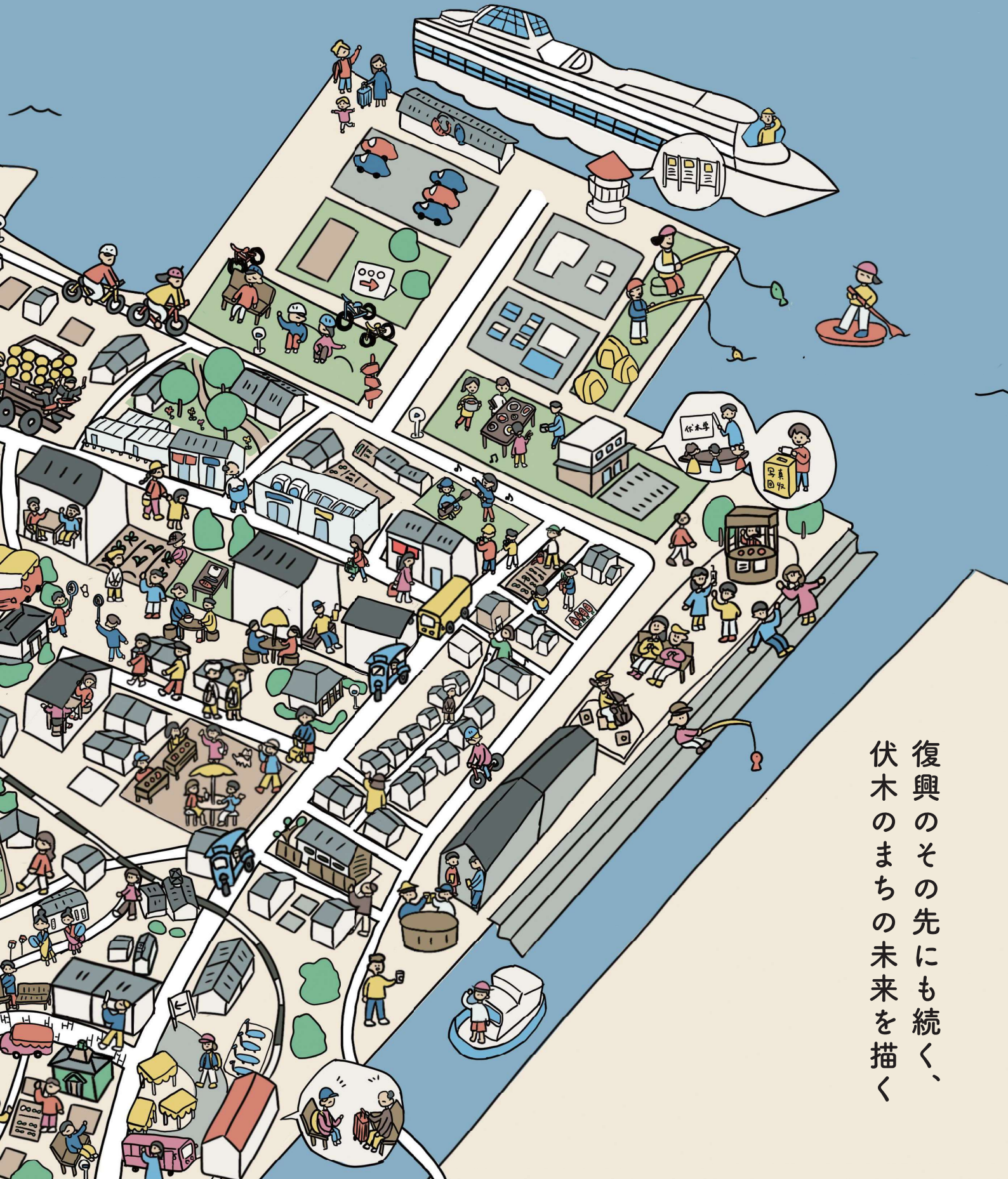


# 文化を育み、生きる伏木

伏木のまち未来ブック 2026



復興のその先にも続く、  
伏木のまちの未来を描く

ごあいさつ

## 復興のその先を見据えた、 次世代に誇れるまちづくりを目指して

令和6年元日に起きた震度5強の地震と大津波警報で、伏木地区の多くの住民は伏木小学校等の高台に避難し、避難所で一夜を明かしました。翌朝、自宅に戻って伏木のまちなかの被害の凄さにびっくりしました。

道路は隆起・陥没し液状化で砂泥が溢れ、電柱は沈下し、家は今にも倒れそうに傾き、上下水道も使えない等、大変な状況でありました。その後、国・県・市の支援と住民の頑張りで、道路の復旧や公費解体が進み復旧が進んでいますが、一方では、空き地が増え、転居者が増え、伏木のまちは大変寂しい状態になりました。

伏木は万葉の時代から伏木港を中心に発展してきた、歴史と文化に彩られたまちです。今回の地震によりまちの様子は大きく変わりましたが、長い歴史の中で先人たちが幾多の困難を乗り越えてきたように、私たちもきっとこの困難を乗り越えることができると思っています。その様な意味からも、伏木の50年後100年後を見据えた未来像を描き、住民が力を合わせて次の世代に誇れるまちづくりを進めて行きたいと思えます。

結びに、発刊にあたり今日までご協力頂きました多くの関係者の皆様に厚く御礼申し上げますと共に、伏木のまちが昔の様な光輝くまちに復興する事を願い、発刊のご挨拶といたします。

伏木地区復興ロードマップ推進委員会 会長  
坂 廣志



## 伏木のまち未来ブックとは

2024年1月1日の能登半島地震により、伏木地区は液状化などの被害を受け、まちの姿は大きく変わりました。大切な風景が失われつつある一方で、私たちの暮らしや思いの中には、今も伏木らしさが息づいています。

これからの伏木地区を考えるために、まずは「今」を見つめ直し、このまちの未来についてみんなで語り合うことが大切だと感じました。その思いから、全4回の「まちづくり懇談会」を開催しました。この「まち未来ブック」は、そこで交わされた声やアイデアをもとに、これからの伏木が目指す姿をまとめたものです。

復興への歩み方や思いは、人それぞれです。だからこそ、このまちが目指す姿を共有し、それぞれの一步を重ねながら、復興のその先にも続く伏木のまちに向けて歩みを進めていきます。

## 目次

伏木のまち未来ブックとは	02
このまちでは、どんな未来を目指す？	03
伏木のまちの未来像	05
未来像を実現するための方針	07
方針1 歴史や自然を活かし、伏木らしさを高める	09
方針2 つながりと心身の豊かさを育む居場所をつくる	13
方針3 商いを育み、暮らしの豊かさを広げる	17
方針4 想いを伝え、支え合う輪を広げる	21
取り組みのつながり	25
場所やエリアごとの取り組み	27
伏木地区ってどんなところ？	31
伏木に生きる私たちの思い	33

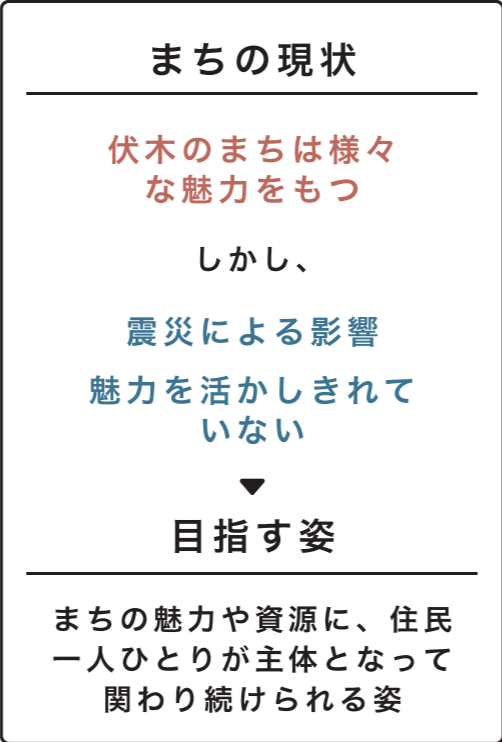
# このまちでは、 どんな未来を目指す？

伏木に暮らす私たちは、このまちに多くの魅力があると感じています。そして、まちに対する誇りや愛着が今もなお深く息づいています。

一方で、能登半島地震をきっかけに、建物の解体が進み、多くの人がまちを離れ、風景や人とのつながりも大きく変化しました。

また、たくさんある伏木の魅力を、まだ十分に活かしきれていないのではないか、このまちの良さを、外の人にもうまく伝えきれていないのではないか、そんな思いもあります。

だからこそ、これまで積み重ねてきた歴史や自然、人の営みといった伏木の魅力に、これからも一人ひとりが関わり続けられる未来を考えていきます。



## まちづくり懇談会で語られたまちの魅力

### 受け継がれてきた祭り 「伏木曳山祭り・けんか山」



祭りの時期になると、外に出た人たちが帰ってきてくれるんだ。若い人も来てくれるので、まちが元気になる。

山を持っていない自治会でも、けんか山祭りを毎年楽しみにしているよ。

### 国宝・勝興寺

伏木の歴史を象徴する寺院。大型の本堂や大広間などが2022年に国宝に指定されています



小さい頃は、勝興寺の境内でよく遊んでいたよ。

勝興寺は、伏木を代表する観光の名所だね。国宝に指定され、訪れる人も増えているよ。

## 積み重ねてきた歴史

### 万葉の歌が息づく

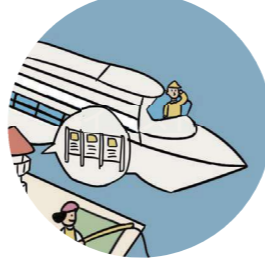


伏木といえば万葉集。万葉歴史館は、万葉の世界を感じられる素敵な場所だよ。万葉衣装を着られる体験もあるんだ。

かつて伏木には、奈良時代に越中国府が置かれ、大伴家持が赴任していました。万葉集に収録される家持の多くの歌は、このまちで詠まれたものです。

大伴家持は、この伏木で多くの歌を詠んだんだ。万葉集に出てくる歌が、まちのあちこちの家に飾られているよ。

### 海と共に育んできた営みがある



廻船問屋の家に生まれた藤井能三さんが、伏木小学校などをつくったんだ。今でも毎年4月には、能三祭が行われているよ。

伏木は北前船の寄港地として栄え、様々な用途の港として発展した歴史があります。現在も伏木港には、ダイヤモンドプリンセス号などの大型客船が停泊します。

小矢部川には昔、ロシア船が入ってきていたんだ。フィリピンやタイの人が切手を買いに来っていたのを覚えているよ。

### 豊かな自然と ともにある暮らし



二上山からの景色が良くて、昔は山に登って、スキーをして遊んでいたんだ。

伏木には山・海・川といった豊かな自然があります。この景色は万葉集にも読まれています。

山・川・海が近くて、伏木ではいろいろな自然を体験できるよ。小さい頃は、海や山でよく遊んだなあ。

### 人びとのつながりがある



近所に知り合いが多くて、自然と人付き合いがあるところが、住みやすく魅力だね。

このまちには、珈琲屋さんや古本屋さんなど、自分の居場所だと思えるお店があるよ。

まちの未来像

# 文化を育み、生きる伏木



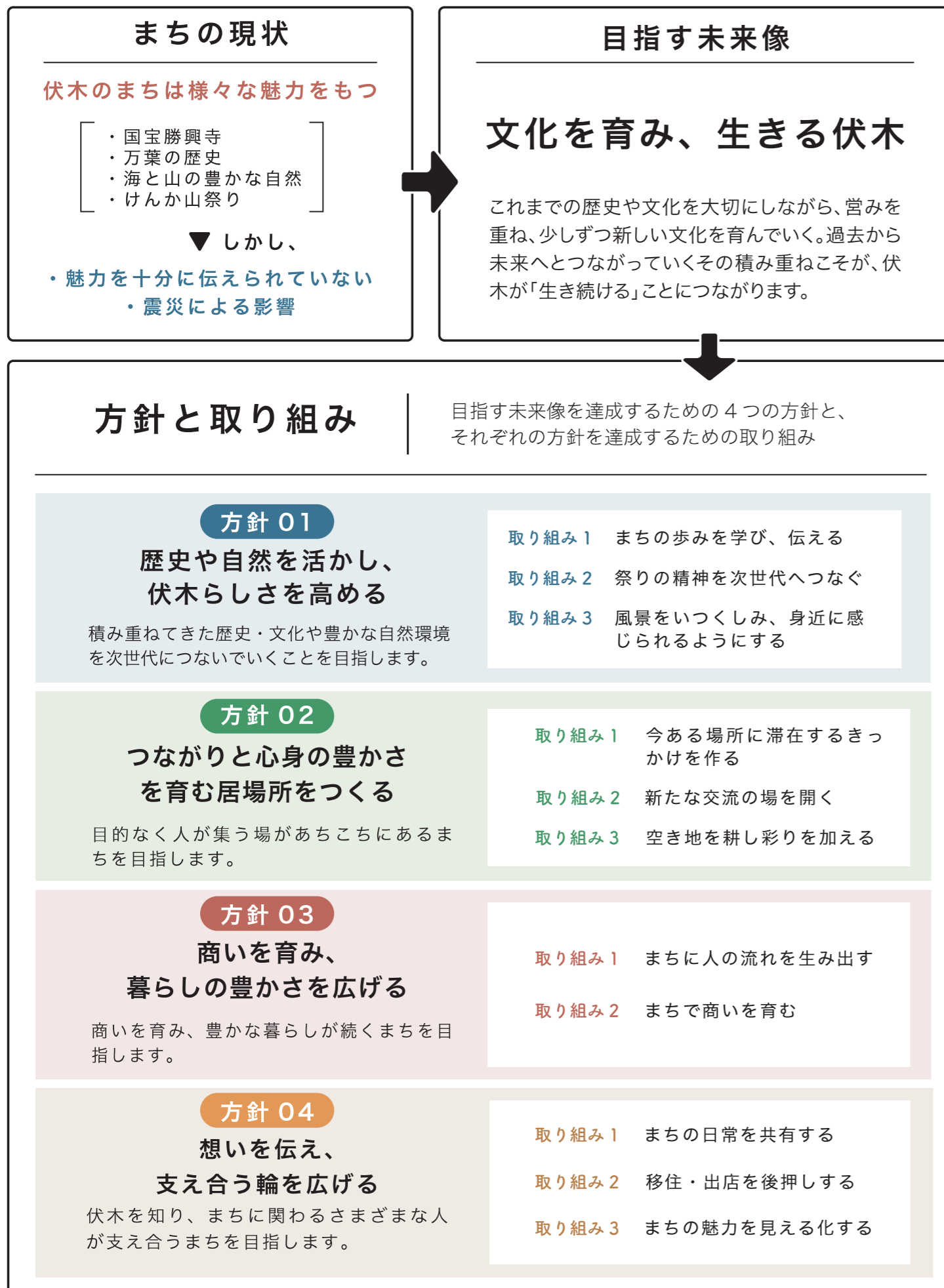
伏木にとっての「生きる」とは、このまちに根ざす日々の営みそのものです。

震災を経験した今も、ここで暮らし続けていること。ご近所との何気ない会話や、のれんを守り続ける商い、伏木のまちに変わらず流れる日々の時間。そうした一つひとつが、このまちの力になります。

これまでの歴史や文化を大切にしながら、営みを重ね、少しずつ新しい文化を育てていく。商いに明かりが灯り、人の行き交いが戻ってくる。

過去から未来へとつながっていくその積み重ねこそが、伏木が「生き続ける」ということにつながります。

# 未来像を実現するための方針



# 伏木のまち未来ブックができるまで

- 2024. 1 ● 能登半島地震の発災
- 2024. 6 ● 液状化の被害状況に関する調査  
(富山大学・東京科学大学が実施)

## 伏木のミライを考えるまちづくり懇談会の開催

### 第1回 魅力・課題を話し合う

伏木に住む私たちが思うまちの魅力や課題、今後このまちで取り組んでみたいことを話し合いました。



### 第2回 取り組みたいことのアイディアを考える

第1回で出た意見をもとに、「伏木でやってみたいこと」を11のテーマに整理し、参加者それぞれが、興味のあるテーマについて話し合いました。



### 第3回 取り組みと伏木のまちの未来を話し合う

第2回で出た意見をもとに6つのテーマを設定。グループに分かれて実現できそうな取り組みと、それにより実現できるまちの未来について話し合いました。



● 伏木のまち未来ブックの作成開始

### 第4回 伏木のまち未来ブックについて話し合う

作成途中の伏木のまち未来ブックを共有し、意見交換を行いました。



- 2025. 7
- }
- 2026. 2

● 2026. 3 伏木のまち未来ブックの完成

# 歴史や自然を活かし、 伏木らしさを高める

#歴史 #文化 #祭り #伝統 #自然環境

## 1 まちの歩みを学び、伝える



## 2 祭りの精神を次世代へつなぐ

## 3 自然を身近に 感じられるようにする

積み重ねてきた歴史・文化や豊かな自然環境が次世代につながられていくまちへ

万葉のふるさととしての歴史、北前船の寄港地、そして工業港へと発展し栄えた港町の記憶、伏木曳山祭りや獅子舞のような伝統行事など、伏木には多様な歴史と文化が今も息づいています。また、山・海・川に囲まれた豊かな自然環境の

中に立地していることも大きな魅力です。しかし、震災や高齢化の影響から歴史・文化的資産は危機に瀕し、管理の問題から自然との距離も離れています。このような中でも、伏木らしさを次世代につないでいくことを目指します。

## 魅力や資源

# さまざまな伏木らしさが今も息づく

### 豊かな自然環境

二上山のふもとに位置する港町である伏木は、山・海・川に囲まれた自然豊かな環境が魅力です。

### 積み重ねてきた歴史

奈良時代、越中国府が設置されていたことや、江戸時代以降の港町としての歴史にあふれています。

### 伝統的な祭礼文化

けんか山祭り（伏木曳山祭り）や、獅子舞などの祭礼文化があります。

## ▶ 伏木のこれまで

### 奈良時代

#### 越中国府が置かれ、大伴家持が赴任する

奈良時代には越中国府が設置されていました。国守として赴任した大伴家持が、この地で万葉集に含まれる多くの和歌を残したことから、万葉のふるさとと呼ばれています。まちのなかには、石碑や大伴家持像、歴史館があるほか、家々には万葉集の和歌が書かれた木札が飾られています。

### 江戸時代

#### 北前船の寄港地として栄える

北海道から大阪までを結ぶ北前船の西回り航路の寄港地となり、港町として繁栄しました。当時、北前船は宝船とも呼ばれており、7軒の廻船問屋（七軒問屋）が力を持ちました。北前船資料館として残る旧秋元家もそのひとつです。

### 明治時代

#### 伏木港の近代化

明治期には伏木港の近代化が始まりました。1859年にロシア船が来航し、藤井能三の働きにより、西洋の汽船、伏木測候所の設置といった伏木港周辺の近代化が進み、1899年に伏木港が開港しました。その後伏木港の工事が行われ、大規模な汽船が接岸できるようになりました。

### 大正・昭和時代～

#### 工業化とロシアとの交易

1917年以降は、伏木港は工業地帯として、工業港となりました。その後1926年から1935年にかけて第二期の港の拡張工事や埋め立て事業が行われ、港の拡張が進みました。戦時中は一時停滞していましたが、1952年には再開し、日本とロシア（旧ソ連）の定期航路寄港地としても発展が進みました。

参考文献：高岡市役所文化国際課 <https://www.city.takaoka.toyama.jp/soshiki/bunkakokusaika/1/2/2/5174.html> 2024/3/29 更新（閲覧日 2026/3/4）  
公益社団法人 高岡市観光協会 高岡観光ナビ [https://www.takaoka.or.jp/feature/detail\\_55.html](https://www.takaoka.or.jp/feature/detail_55.html)（閲覧日 2026/3/4）  
伏木ライオンズクラブら：ガイド伏木、1983年

## 現状や課題

# 伏木らしさの喪失と担い手不足

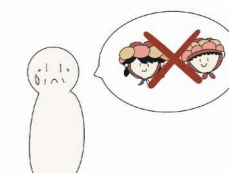
### 解体による街並みの喪失

震災により、まちに昔からあった建物も被害を受け、解体により歴史的な建造物もいくつかまちから姿を消しました。



### 担い手不足

歴史文化の語り手や、祭りの担い手など、次世代に「伏木らしさ」をつないでいく者が少なくなっています。



# 取り組みの内容

## 歴史・記憶

### 1 まちの歩みを学び、伝える

これまでバラバラになっていた思い出や記録を、誰でも見られる状態にするための土台を作ります。これまでの歴史が途絶えることなく可視化され、いつでも振り返られるような状態を目指します。

#### 取り組みのアイデア

##### 記録に残す

正式な資料には残らない、個人の思い出を含むまちのこれまでの姿を集めて記録し、次の世代へとつなぐ。

##### 思い出の写真を収集する

昔の様子が伺える写真を回収するボックスや Web サイトを作成し、まとめて記録できるようにする。



##### まちのひとへの聞き取り調査

伏木に昔から住んでいる方に、昔のまちの姿や当時の思い出について教えてもらい、記録する。

伏木は江戸末期から時代の節目に街並みを変えてきたよ。震災により更地になり、街並みから歴史を感じられなくなって残念…



##### 学べる状態を作る

まちの歴史や震災の記録をいつでも見て学ぶことができる状態をつくる。

##### 資料をまとめる

集まった資料を本やマップ、Web サイト、展示などにまとめ、自由に見られるようにする。



##### イベントの開催

歴史の勉強会や思い出を語る座談会、現地を歩きながら学ぶまちあるきなどを開催する。



伏木の窯業、それに関連した古府焼きの歴史を記録して残したい



## 祭り・伝統

### 2 祭りの精神を次世代へつなぐ

けんか山祭りや獅子舞などの伝統文化を、関わる方法を増やしたり運営方法を更新することで、担い手の裾野を広げ、次の世代へバトンを渡せるような体制をつくります。

#### 取り組みのアイデア

##### 祭りの運営方法を更新する

##### 若者や外国人に参加の機会をひらく

高校生や外国人など、伏木に関わりがない人も祭りに参加できる体制をつくる。また、窓口を設置し、多くの人に参加してもらいやすくする。



祭りに参加してみたいけど、誰に聞けばいいのかわからない。窓口がわかりやすいと嬉しい



##### けんか山グッズ・山町ごとのファンクラブ

グッズ販売や山町ごとのファンクラブ、クラウドファンディング、資料館の運営など、楽しみながら活動資金が得られる仕組みを取り入れる。



けんか山祭りに集まる若い人を増やしたら移住にも繋げられるのでは？



## 景観・風土

### 3 自然を身近に感じられるようにする

海・川などの自然環境を感じられるような場所を整備し、その豊かさに触れられる機会を増やします。

#### 取り組みのアイデア

##### 親水空間を整備する

##### 小矢部川沿いの整備

小矢部川沿いの倉庫の改修や護岸の整備を行い、散歩や釣りなどで伏木ならではの自然を日常的に感じられるようにする。また、イベントなども実施する。



防波堤に絵を描いて訪れてもらうきっかけにしたい

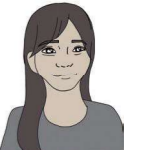


##### 川・海でのアクティビティ

かつての渡し舟を思わせる遊覧船をつくり、川を渡ったり、海や川から伏木のまちを眺められるようにする。



かつてのように、川・海をより身近に感じられるようなまちになるといいね



#### 複合的な取り組み

### 歴史・伝統・風土を伝える

##### 伏木を体系的に学べる場づくり

##### 資料館の設置

伏木の歴史や文化、産業、気候や風土などを、体系的に学べる資料館をつくる。まずは住民が伏木について詳しくなる環境を整える。



まちの歴史を学び、震災で揺らいだ自分の拠り所を見つけ直したい



閉校になる伏木小学校を使うことはできないかな？



#### 実行に向けたヒント

「まずはここからやってみよう！」

##### ① 思い出の写真回収ボックスの設置

家に残るアルバムなどから提供できる写真を入れてもらう箱を、伏木コミュニティセンターや協力いただけるお店などに設置し、資料を集める。

##### ② 写真をもとに過去を調べてみる

集まった写真をもとに、思い出を語り合ったり、昔のことについて、気になったことを更に調べてみる。

##### ③ 過去の写真と今を比べるまち歩き

集まった写真が撮られた場所に行き、現在と過去の様子を比べながら、まちのこれまでについて話すまち歩きを実施する。

##### ④ わかったことを展示・公開する

集まった写真や、分かったことをまとめ、展示やマップなどに落とし込み、誰でも見られる状態にする。

# つながりと心身の豊かさを育む 居場所をつくる

# 交流の場 # 空き地 # 多世代交流 # イベント・マルシェ # 公民館

1 今ある場所に滞在する  
きっかけを作る

2 新たな交流の場を開く

3 空き地を耕し、彩りを加える



ふらっと立ち寄れる場があちこちにあるまちへ

特色ある産業・観光地・歴史・地域に根差したお店がありながら、少子高齢化や、震災により住む人が減り、空き地が目立ってしまっています。もともとあった賑わいを取り戻したい、現在伏木に住む人もそうでない人も伏木の地に「居

場所」があってほしいといった想いがこの方針には込められています。新たな活動が生まれ、つながり、また新たな活動へと広がっていくこと、外出のきっかけを生み出し心身ともに健康になることを目指します。

## 人々の居場所となる場や機会がまちにある

### 人とのつながり

昔から住んでいる人が多く、近隣住民との深い関係性があります。

### 滞在できるお店

喫茶店や居酒屋など、いつの間にか時間が経つような楽しい居場所がまちのなかに残っています。

### 駅前での朝市

駅前では、「ふれあい朝市」が4月～12月の間、月に2回開催されています。

### ▶ 今のまちの居場所となっている場所

#### 嘉太郎珈琲

ここに来れば一息付けるまちの人に愛されている憩いの場。土曜夜にはバーとしても営業しています。時には音楽ライブ・コンサートも行われています。



#### 堀田商店

鮮魚店としての役割のほかに、魚を捌いてもらうのを店内で待つ時間が、お客さん同士の会話のきっかけとなっています。



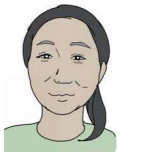
#### 古本なるや

日常の延長線上に、情報や人とつながれる場所、悩みを共有できる場所があれば、という想いのもと、「気軽に話せる古本屋」として営業しています。



#### 喫茶潮の音

震災後、まちの将来を考えるために定期的に会合が行われています。復興のため、まちのために有志が集まる空間となっています。



#### 不遠寺

境内では、遊んでいる子どもや、散歩の途中に立ち寄ってひと休みする人の姿も見られます。仏さまを身近に感じられ、気軽に立ち寄ることのできるお寺です。



#### 公園

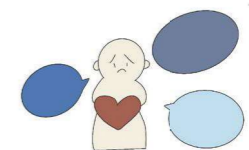
玉川中央公園では、復興への希望を届けたいという思いを込めたイルミネーションが実施されました。他にも、本町公園はけんか山祭りの会場に、コミュニティセンター横の緑地は港まつりの会場としてそれぞれ用いられています。

## 集まる機会の減少とひらかれた居場所の不足

### 公民館の解体



### 居場所が十分に開かれていない



石坂自治会、中道自治会では、公民館が大きな被害を受けて解体されました。コミュニティセンターはあるものの、距離が遠かったり、気軽に使いにくい状況があります。石坂自治会では、不遠寺を会合や獅子舞の練習の場として一時的に貸し出していただけなど、地域の支え合いによって活動が続けられています。

伏木には居場所となるお店や場所もありますが、そうした場所を知らない人も多く、一部のみに情報がとどまってしまっている面があります。また、外に出る機会が少ない高齢の方も多く、心身の健康への影響も懸念されます。

活動・にぎわい

## 1 今ある場所に滞在するきっかけを作る

空き地に直接手を加えなくても、外に出た時に「ちょっと座れる」「ちょっと話せる」ような、自然に人が集まる環境の整備や、外出するきっかけとなるような取り組みを実施します。

取り組みのアイデア

### 休憩スポットの設置

#### ベンチの設置

まちなかにベンチを設置し、長い距離を移動できない高齢者でも、休憩しながら安心してまちを歩ける環境を整える。



ベンチがあれば休憩しながらいつもより歩くことができる！

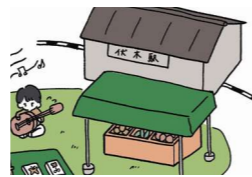
すでに行われているイベントも場所を変えると変化が生まれるかも！



### 空き地でイベントを実施する

#### 既存イベントの拡大

駅前で行われている朝市などの伏木のイベントを、まちに点在する空き地を活用して開催し、人が歩き、立ち寄るきっかけをつくる。



#### 新たなイベントの実施

自分の得意なことを教え合う教室や、家にあるアートを持ち寄る展示会、音楽イベント、マルシェなど、住民が主役の新たなイベントを開催する。



拠点整備

## 2 新たな交流の場を開く

公民館をはじめとする屋内拠点を整備し、震災でまちを離れた人も含め、安心して交流できる居場所を作ります。

取り組みのアイデア

### ふらっと立ち寄れる場づくり

#### サロンの設置

子どもと高齢者、伏木を離れた人なども含め、多世代を対象に、自治会を横断して集まれるような場をつくる。困りごとなどの日々の相談や情報交換が気軽に行える環境を整える。



ふらっと立ち寄れる、本音で話せる場が必要だね



#### 新たな公民館の再建

震災により解体された公民館を、今後求められる機能を考えながら再建する。



#### 新しい活動の場づくり

古い倉庫をライブハウスにしたり、空き地をスケボーパークにしたりして、若者もワクワクする活動の場に変える。



環境・みどり

## 3 空き地を耕し、彩りを加える

震災によって増えた空き地を耕し、花や街路樹を植えたり、野菜を育てて畑にしたりすることで、空いた場所に彩りを添え、心地よい風景をつくっていきます。

取り組みのアイデア

### 空き地を畑にする

#### 野菜を育てる

空き地を耕し、地域の人たちで野菜を育てるコミュニティガーデンをはじめる。



#### 収穫祭を開催する

みんなで育てた作物を収穫し、調理して食べるイベントを実施する。



野菜に詳しい方に教えてもらいながら挑戦したいという話があがったよ！



### 空き地に花や樹木を植える

#### 小さな杜の都をつくる

眺めのいい空き地に草木や花を植えて、景色を楽しめる場所を作る。それを目当てに若い世代の人にも立ち寄ってもらえるのではないかな。



#### 並木通りをつくる

サクラやイチョウの木を植えて、並木通りを作る。季節によって景色が異なり、まちを歩くことが楽しくなる。



まちなかに緑が溢れるまちに変わるかもしれないね



### 実行に向けたヒント

「まずはここからやってみよう！」

#### ①使える場所をさがそう

解体後の空き地や、使われていない駐車場など、持ち主の使用許可が得られる場所を探そう。

#### ④ベンチのまわりをにぎやかにしよう

ベンチのまわりに鉢植えを置いたり、テーブルを置いたりして、座るだけではなく、集まれる場としての機能性を高めていく。

#### ②ベンチや鉢植えの設置

ちょっと座って話せるようなベンチや、四季の花が楽しめる鉢植えを置いてみよう。

#### ⑤小さな杜の都をつくる

草花や樹木を植えて、写真映えもするまちなかの小さなオアシスをつくる。

#### ③取り組みを広げていこう

ベンチを点在させることにより、休憩をしながら歩きやすいまちにしていく。

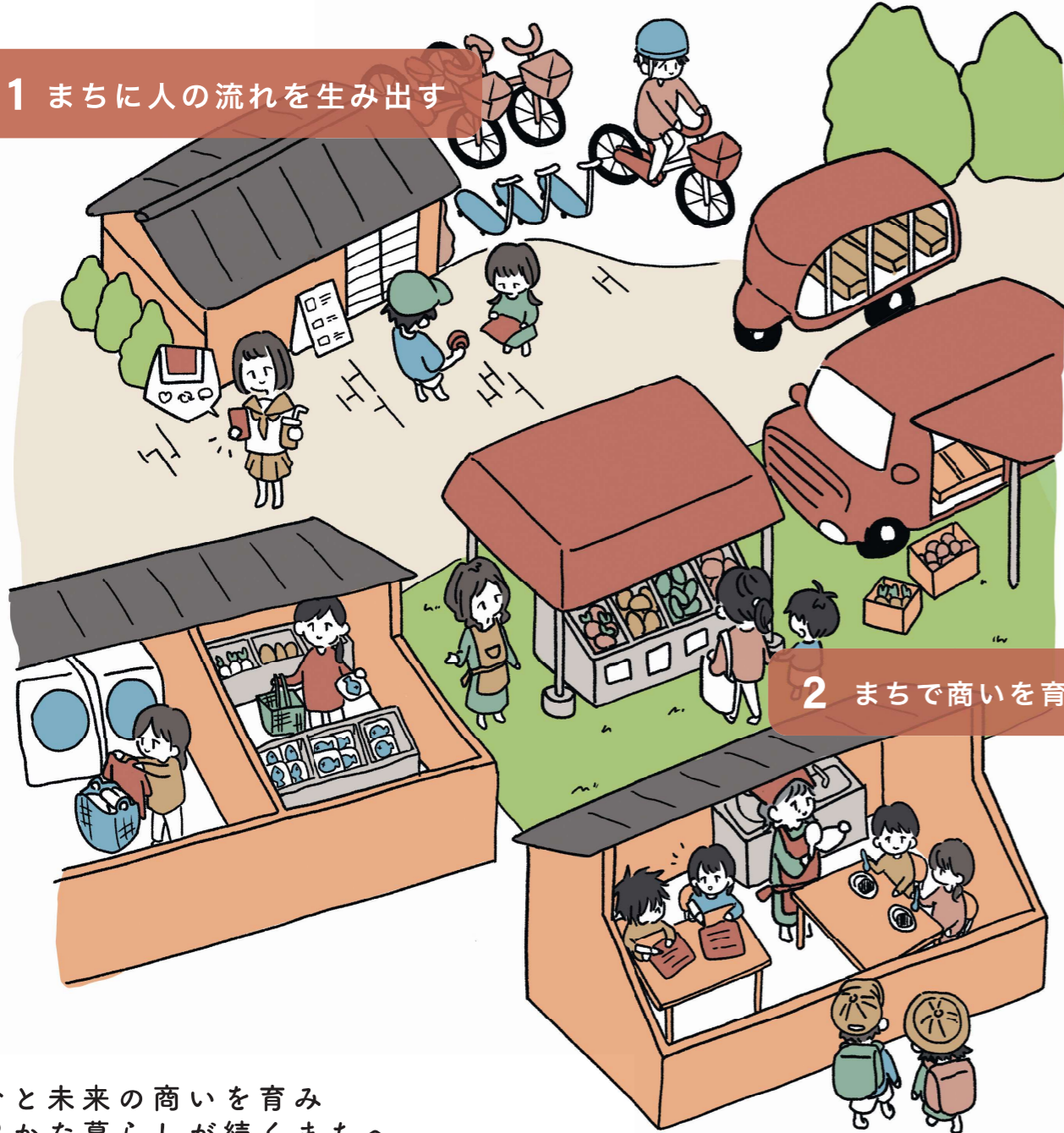
#### ⑥人の移動と会話のきっかけを支える場所へ

まちなかに緑あふれる休憩スポットが増えれば、足の悪い高齢者でも徒歩移動が可能になる。また、会話のきっかけが多く生まれるまちになる。

# 商いを育み、暮らしの豊かさを広げる

#お店 #住まい #暮らし #交通 #空き地活用 #チャレンジ

## 1 まちに人の流れを生み出す



## 2 まちで商いを育む

### 今と未来の商いを育み豊かな暮らしが続くまちへ

震災により、伏木では多くの店舗が被害を受け、閉店や移転を余儀なくされました。その結果、日常の買い物が不便になり、暮らしの環境も変化しています。一方で、震災後も伏木での商いを守り続けているお店もあります。まずはまちの移動のハードルを下げ、今あるお店を訪れや

すい仕組みを整えます。そして既存の店を大切にしながら、商いの再スタートや新しい商いにも取り組みやすい環境を整えます。伝統あるお店と新しい商いの芽、そしてそれらを結び便利な交通。これらが一繋がりになることで、暮らしや商いが続いていくまちを目指します。

## 魅力あるお店とチャレンジできる可能性

### 人を惹きつけるお店

震災を経ても続けられるお店や、震災後にこのまちへの思いを持ち、新しくお店を始める人々が存在します。

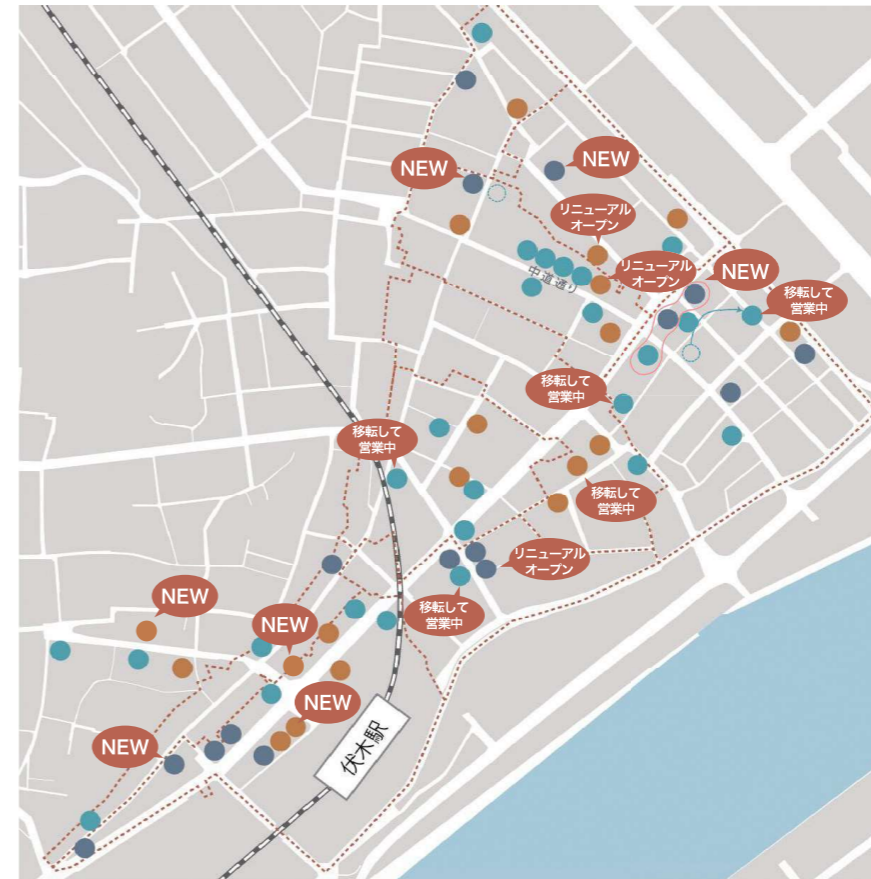
### 新たなことに挑戦できる空き地

新しいことにチャレンジできそうな、空き地や跡地があります。

### 商いの文化

かつては多くの商店が並び、人の往来で賑わっていました。中道通りは、人が歩くのも大変だったと言われるほど商いが盛んでした。

### ▶ 伏木のお店



#### 凡例

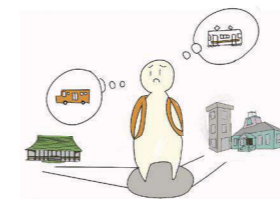
- 飲食店
- 小売店
- その他
- 新しい / 再建・移転したお店

※掲載している内容は、2025年5月に実施した学生によるフィールドワークをもとに作成しています（2026年3月更新）。内容は必ずしも正確ではない場合がありますので、ご了承ください。

## まちの巡りにくさや、日常の買い物に課題

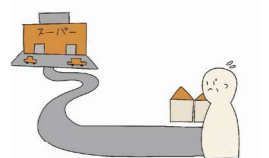
### まちを巡る手段が少ない

現在の伏木には、お店や観光地が広範囲にある一方で、それらを巡るための手段が少ない状況にあります。



### 買い物できる場所が少ない

震災の影響で多くの店舗が被害を受け、閉店や移転が相次ぎました。その結果、伏木では買い物がしにくい状況となっています。



# 取り組みの内容

## 交通

### 1 まちに人の流れを生み出す

点在する商店や拠点、参道や空き地などをつなぎ、住民の生活を支える交通の動線としても機能させながら、まちの中に人の流れを生み出します。伏木の魅力に自然と触れられるようにすることで、車で訪れた人も、ついまちを巡りたくなる、そんな状態を目指します。

#### 取り組みのアイデア



#### 移動しやすいまちなかをつくる

##### 移動手段を増やす

- ・電動キックボード
- ・トゥクトゥク
- ・相乗り形式のタクシー
- ・コミュニティバスなどの運用を始める。



▲トゥクトゥク ▲電動キックボード



住民も一端を担いながら支える地域交通の仕組みがあるといい。

##### 駐車を周知する

駅前やまちなかの、駐車を周知できるような仕組みをつくる。車で伏木を訪れた人が、歩いてまちを巡りやすいような環境を整える。

##### レンタサイクルの仕組みを改善する

レンタサイクルを複数の場所で返却できるようにすることで、現状よりも使いやすくする。クルーズ船の観光客が気軽に利用できるような仕組みをつくる。

#### お店に訪れるきっかけをつくる

##### ナショナルサイクルルートの活用

サイクリストの休憩拠点となる場を整える。また、ルート沿いに飲食店や立ち寄りやすい施設を増やすことで、まちへの立ち寄りや滞在を促す。



ナショナルサイクルルートとは・・・  
国が指定した、景観や地域の魅力を楽しみながら安全に走れるよう整備されたルート。



観光客だけでなく、足の悪い方、車を持たない方など、住民の足として機能したらいいね。

#### 実行に向けたヒント 「まずはここからやってみよう！」

##### レンタサイクルをもっと“見える”仕組みに

①レンタサイクルの設置場所を、現在の設置場所より目につきやすい、駅舎の目の前にも設ける。

②案内サインやマップ、使い方の見える化を行い、「来たらすぐ使える」状態をつくる。

③すぐ使える状態になることで、車を使わずとも伏木内の名所やお店を気軽に回ることができる。

## 商い

### 2 まちで商いを育む

今あるお店に人が訪れる機会を増やすとともに、新しい商いに挑戦できる環境を整えることで、住民の暮らしを支え、より楽しく暮らせるまちを目指します。

#### 取り組みのアイデア



#### お店への立ち寄りを増やす

##### 伏木のお店を巡るスタンプラリー

伏木内のお店を巡る仕掛けとして、スタンプラリーを開催する。



スタンプを集めたら、けんか山グッズがもらえるよ！  
みたいなのがあってもいいかも。



#### 買い物と交流を支える、仕組みを作る

##### マルシェ・朝市の開催

商いや交流が生まれる場をつくるため、空き地を活用してマルシェや朝市などを定期的に開催します。移動可能なテントや販売車を活用し、さまざまな場所での開催を目指す。



駅前で開催されている朝市を、空き地で開催しても良さそう！



#### 世代やニーズに応じた商いを育てる

##### みんなの食堂

地域の子もたちが安心して立ち寄れる居場所。食事を通して世代を超えた交流が生まれ、家庭でも学校でもない気軽に通えるお店をつくる。



##### 駄菓子屋

地域のお年寄りが店番をし、子どもたちと自然に言葉を交わす小さな交流拠点。買い物以上の価値を生む、世代をつなぐ場。

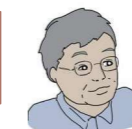
できる人が、できることから始めることが重要だね。



私たち学生も、何かチャレンジしてみたい！！



伏木駅～コミュニティセンターの道路沿線の空き地を使ってもいいかも。



#### 若者が楽しめるお店

学校帰りや夏休みに気軽に集まれるお店を運営する。若者の興味・関心に添った内容を取り入れて、より楽しめるような場をつくる。



若い世代がこのまちで過ごしたいと思える、楽しめる場をつくりたいな！



#### 実行に向けたヒント 「まずはここからやってみよう！」

##### ①マルシェの開催

空き店舗や既存店舗、空き地などを活用し、お店をしたい人や新しいことに挑戦したい人が、無理なく試すことのできるマルシェを開催する。

##### ②商いに挑戦しやすい環境

出店者同士や既存の商店とのつながりが生まれる仕組みをつくり、商いに挑戦してみたい人が気軽に始められる環境を整える。

##### ③新規出店・集合店舗の常設

取り組みを継続することで、将来的な新規出店や集合店舗の設置につなげていく。

# 想いを伝え、支え合う輪を広げる

# 情報発信 # 復興の過程 # 移住・出店 # 転居者 # 観光

## 1 まちの日常を共有する



## 2 移住・出店を後押しする



## 3 まちの魅力を見える化する

### 伏木を知り、まちに関わるさまざまな人が支え合うまちへ

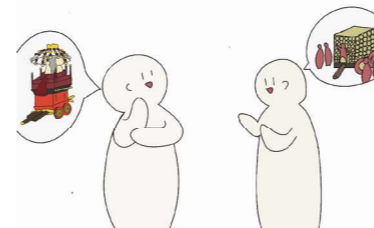
伏木には、歴史文化や祭礼などの豊かな資源に加え、まちを想う人々や空き家活用といった挑戦の可能性があります。しかし、現状はそれらの「想いや情報」が十分に届いていません。地域内では日常の共有や復興の歩みが見えにくく、

伏木には、歴史文化や祭礼などの豊かな資源に加え、まちを想う人々や空き家活用といった挑戦の可能性があります。しかし、現状はそれらの「想いや情報」が十分に届いていません。地域内では日常の共有や復興の歩みが見えにくく、地域外へ

## 魅力や資源

# 伝えたい人や情報がたくさんある

### まちを大切に想う人がいる



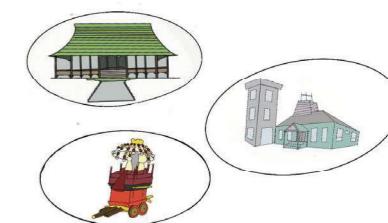
営業を続けるお店や歴史文化を残そうとする人々など、まちに誇りや愛着を持ち、大切に思う人たちがいます。

### 新たな挑戦に向けた可能性



空き地や空き家が、新たな挑戦の場となる可能性があります。

### 多くの魅力的な資源を持つ

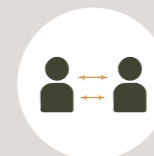


勝興寺や万葉の歴史、けんか山祭りなど、様々なまちの魅力があります。

## 現状や課題

# 想いや情報が、十分に伝わっていない

### 地域内の情報共有



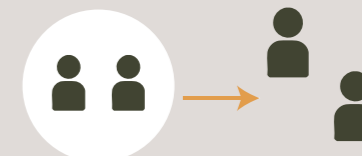
### 日常の情報が伝わりづらい

回覧板だけでは、日々の連絡や急な情報が十分に伝わらないことがあります。より気軽に、素早く共有できる仕組みが求められています。また、震災によってやむを得ず伏木を離れてしまった人が、伏木に関わり続けられる情報が伝わっていません。

### まちの今が、見えにくい

復興に向けた動きや日々の変化が十分に伝わらず、まちの今の様子が見えにくくなっています。

### 地域外への情報発信



### 伏木の魅力が、十分に伝わっていない

様々な魅力があるものの、その魅力を十分に伝えることができていません。

### 復興に向けた歩みが、届ききっていない

復興に向けて想いを持って取り組んでいる人たちの姿や想いが、十分に伝わっていません。

### 移住や出店に向けた情報や仕組みが十分でない

挑戦を後押しする土壌はあるものの、情報不足により移住や出店のハードルが高く感じられます。

# 取り組みの内容

## 日常

### 1 まちの日常を共有する

まちの日常や今を伝え、共有することで、まちに関わる人同士のつながりを深め、新たに関わる人の輪を広げることを目指します。

#### 取り組みのアイデア

##### 地区内での情報共有

##### 自治会のグループLINE

玉川自治会でされているように、災害時の安否確認の迅速化や回覧板のデジタル化、日常の情報共有などを目的に、グループLINEを活用する。



##### ミニコミ誌・壁新聞

伏木内でのイベント情報や防災情報、お店の情報などを発信する。



##### 離れている人とまちをつなぐ

##### 故郷の今を届ける SNS

伏木を離れた人が、まちの今の様子やささいな変化を知ることができる発信を行う。

##### 外の人へまちの現状を伝える

##### 震災後のまちを伝える

震災後のまちの現状や復興の様子、住民の想いなどを知ることができる場や機会をつくる。



##### 外から関わるきっかけをつくる

空き地の活用アイデアの募集など、まちの外の人が「自分も何か関われるかも」と感じられるきっかけをつくる。

子どもから高齢の方まで、幅広い世代が楽しめるような仕掛けがあったらいいな。



一人ひとりの生活に合わせて、情報のやりとりができるようになったら、便利かも！



## 移住・出店

### 2 移住・出店を後押しする

移住や新規出店への一步を踏み出してもらうため、空き家やまちの情報を伝える仕組みを整えることで、挑戦したい人や移住したい人が一步を踏み出しやすい環境をつくることを目指します。

#### 取り組みのアイデア

##### 移住・出店のきっかけを作る

##### 出店者の声を伝える

実際にまちで商いをしている人の話を伝え、出店を考える人が具体的にイメージできるようにする。



##### 段階的な関わり方を伝える

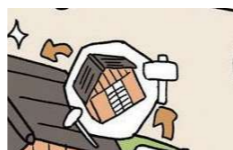
「まずは週末だけ住んでみる」「まずは簡単な商いから」など気軽に試せる関わり方を伝え、伏木への移住・出店のきっかけをつくる。



##### 移住・出店に必要な情報を伝える

##### 空き家の情報

移住や出店をしたい人が、スムーズに一步を踏み出せるように情報を発信する。



伏木に移住・出店したい人を迎える受け皿をつくっていくことが大事になってくるね。



## 観光

### 3 まちの魅力を見える化する

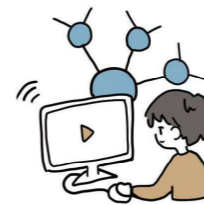
伏木の魅力や資源を伝え、巡るのが楽しくなる情報の発信や仕組みづくりを通して、まちの外から人の流れを生み出すことを目指します。

#### 取り組みのアイデア

##### 伏木の魅力を伝える SNS

##### SNSでの情報発信

SNS (Instagram、Youtube など) で観光スポットやお店などを発信し、主に若年層が伏木を訪れる。きっかけを作る。



SNSの発信を継続的に取り組むために、運営体制をしっかりと整えていく必要があるね。



##### 伏木の魅力を伝える SNS

##### マップの制作と設置

歴史や飲食店、短時間滞在など、ニーズに合わせたマップを作成し、クルーズ船の乗客や観光客が伏木での滞在を楽しめるきっかけを作る。



##### 歩きながら伏木を知る仕掛け

電柱やマンホールにQRコードを設置し、スマートフォンで読み取ることで、伏木の見どころに出会える仕組みをつくる。



伏木駅やコミュニティセンターに伏木の観光名所、喫茶店、食べ所などを映像で映し出したら面白そう！休憩所として整備にしてみてもいいかも！



##### 案内板・サイン計画

クルーズ船で訪れる外国人観光客に向けた、多言語に対応した案内板やサインを整備し、訪れた人がまちを巡りやすくする、きっかけを作る。



QRコードを読むことで、マップの載せきれない情報を知ることができるようにしてみるのもいいかも！



## 複合的な取り組み

### 情報を組み合わせる

##### まとめて伏木を伝える

##### まちの情報がまとまったホームページ

伏木の日常・移住・出店・観光に関わる情報を単体で発信するのではなく、まとめて伝えることができるホームページを作成する。

##### 伝え方を組み合わせる

##### ウェブに繋がるマップ

マップにQRコードを掲載し、読み取ることで店舗情報やまちの歴史など、誌面では伝えきれない情報を詳しく見られるようにする。

## 実行に向けたヒント

### 発信方法

#### アナログ媒体 (まち歩きマップ、回覧板、掲示板など)

**良い点:** インターネットを利用しない層にも情報が届く、紙として手元に残る。  
**難しい点:** 制作や更新に手間がかかり、広く拡散しにくい。

#### デジタル媒体 (SNS、ホームページ、LINEなど)

**良い点:** 気軽情報を発信することができる、拡散力がある。  
**難しい点:** SNSやHPなど、媒体に合わせて伝え方を変える必要性。

情報発信で大切なことは続けること。届けたい相手に合わせて発信方法を選び、それぞれができる形で発信しながら、無理なく続けられる運営体制をつくる。



# エリアごとの取り組み

4つの方針に基づく取り組みを、このまちで実際に進めていくとすると、どのような場所で、どのようなことができるでしょうか。

伏木のまちに住む私たちが大切だと感じている場所や、重要だと考える場所をもとに、そこで考えられる取り組みのイメージを6つのエリアごとにまとめました。

## 対象の6つのエリア

- ① 勝興寺と旧参道
- ② 伏木駅と駅前広場
- ③ 中道通りとかっチャ広場
- ④ 伏木小学校
- ⑤ コミュニティーセンターと玉川中央公園
- ⑥ 万葉ふ頭



## ① 勝興寺と旧参道

**目指す姿** 伏木の歴史や魅力に出会える、歩いて楽しめる参道

### エリアの特徴

- ・伏木駅と勝興寺を繋ぐ動線は、傾斜が急な坂道が多くみられる。
- ・現在の参道には、伏木気象資料館や店舗など、勝興寺以外にも魅力的な資源が多くある。
- ・来訪者は伏木駅と勝興寺を往復することが多く、旧参道にある北前船資料館やまちなかへと足を運ぶ人はあまり多くない。

### エリアの方向性

- ・参道を、居心地がよく歩きたくなる通りにする。
- ・参道や旧参道に点在している資源をつなぎ、より伏木での滞在を豊かなものにする。
- ・旧参道と現在の参道の特徴を活かす。旧参道は、細い通りの裏道感を活かして、より楽しめるような道にする。

### 将来イメージ



**サイン計画・案内板**  
地元目線の情報を盛り込んだ地図を作成する。

**ベンチをDIY**  
参道を登っている途中で休憩できる、ベンチを制作し設置する。

**七不思議スタンプラリー**  
歴史スポットを巡るスタンプラリーを実施する。

**寄り道スポット**  
参道で食べ歩きできるように、キッチンカーや軒先を活用した茶屋などを誘致する。

凡例

- 方針1
- 方針2
- 方針3
- 方針4

## ② 伏木駅と駅前広場

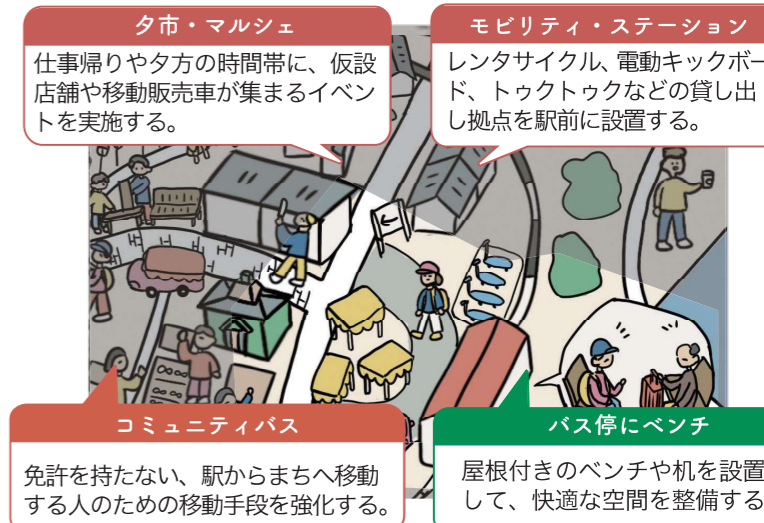
### 目指す姿

伏木の玄関口として、人が集まり、まちなかへと向かいたくなる駅前

### エリアの特徴

- ・バス停や電車など、交通の結節点である。
- ・駅前には広い駐車場や、昔ながらの駅舎がある。
- ・駅周辺には、飲食店が集まっている。

### 将来イメージ



**タ市・マルシェ**  
仕事帰りや夕方の時間帯に、仮設店舗や移動販売車が集まるイベントを実施する。

**モビリティ・ステーション**  
レンタサイクル、電動キックボード、トゥクトゥクなどの貸し出し拠点を駅前に設置する。

**コミュニティバス**  
免許を持たない、駅からまちへ移動する人のための移動手段を強化する。

**バス停にベンチ**  
屋根付きのベンチや机を設置して、快適な空間を整備する。

### エリアの方向性

- ・駅前からまち全体に流れる動線や仕組みを整える。
- ・駐車場などの広い空間を活用し、人が集まるきっかけをつくる。
- ・ベンチの設置で、駅前での待ち時間を居心地よく過ごせる空間を整える。

## ③ 中道通りとかっチャ広場

### 目指す姿

人々の営みや商いが広がり、息づく通り

### エリアの特徴

- ・商住一体の家屋が多く見られる。
- ・かつては中道通りに行けば全ての買い物が完結するような、商業の中心地だった。
- ・通りには空き家・空き地が増えている。
- ・けんか山祭りのかっチャの会場である伏木本町公園がある。

### エリアの方向性

- ・空き家や空き地を活用し、新しい商いや活動が生まれる場を作る。
- ・人が自然と集まり、過ごせる場所を生み出す。
- ・けんか山祭りの際に、通りのお店や空き地を活用する。

### 将来イメージ



**祭りの練習場所**  
祭りの練習場所や、休憩所としての機能を持たせる。

**空き地の活用**  
コンテナハウス、プレハブなど、本格的な建築を持たずにはじめられる店舗や広場を整備する。

**コミュニティガーデン**  
空き地を活用して、伏木の人が花や野菜を育てる。

**交流が生まれる集合店舗**  
お店同士や、お店と利用者、利用者同士の交流が生まれる集合店舗を整備する。

## ④伏木小学校

目指す姿 **さまざまな人が集い、学び、過ごせる旧伏木小学校**

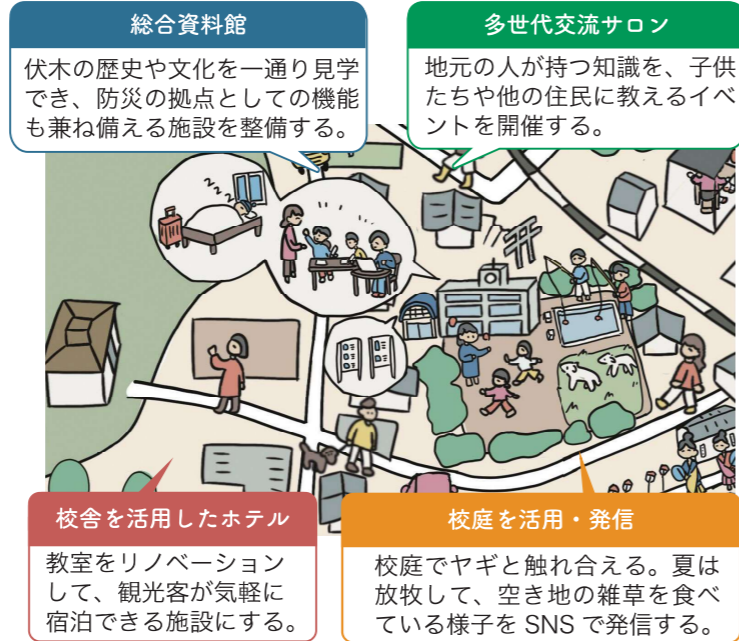
### エリアの特徴

- ・明治6年に創立した、富山県内最古の小学校である。
- ・小中学校の統合により、数年で閉校となる予定である。
- ・高台に位置し、まちを見渡することができる。
- ・校舎や校庭など、大きな空間を持っている。

### エリアの方向性

- ・子供から高齢者まで、多世代の人々や、地域内外の人が交流できる場所にする。
- ・伏木の歴史、文化、風土などを学ぶことができる展示を作り、地域の記憶を伝える場所にする。
- ・高台に位置することから、防災の拠点として機能させる。

### 将来イメージ



## ⑥万葉ふ頭

目指す姿 **海とまち、人をつなぐ港の拠点**

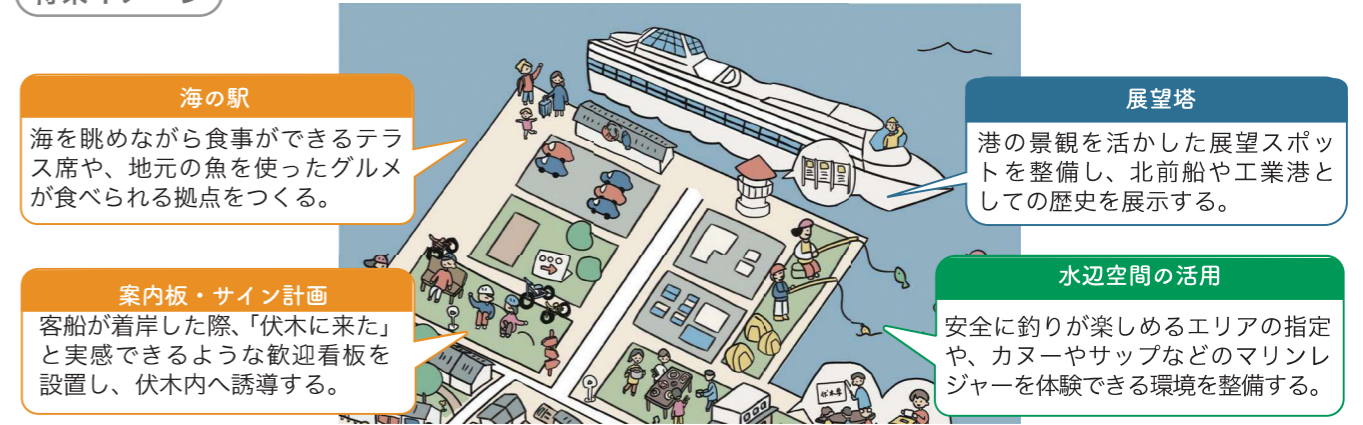
### エリアの特徴

- ・万葉ふ頭緑地は海に面し、釣りスポットや住民の水辺空間として親しまれている。
- ・伏木港はダイヤモンドプリンセス号などのクルーズ船の寄港地で、多くの外国人観光客が訪れる。
- ・北前船の寄港地や工業港として栄えた歴史がある。

### エリアの方向性

- ・万葉ふ頭緑地を整備し、住民の親水空間としてより海を感じられる場所をつくる。
- ・クルーズ船で訪れた観光客を、伏木のまちへ誘導する仕組みをつくる。
- ・マリンスポーツや釣りなど、海を体験できる場所としての活用を進める。

### 将来イメージ



## ⑤コミュニティセンターと玉川中央公園

目指す姿 **伏木の価値を再発見し、人や思いが繋がる地域のコミュニティ拠点**

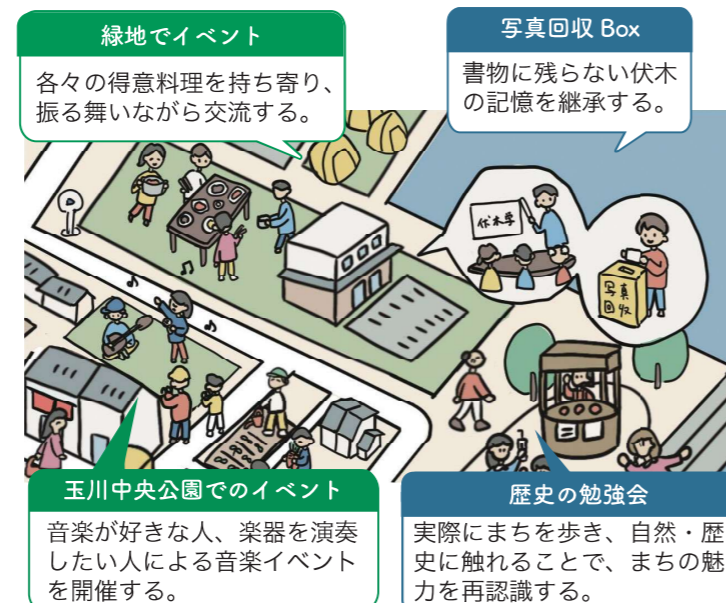
### エリアの特徴

- ・コミュニティセンターは、イベントや会合の場として、伏木地区全体の住民が集まる拠点となっている。
- ・玉川中央公園やコミュニティセンター横の緑地など、広々とした開放的な空間がある。

### エリアの方向性

- ・伏木コミュニティセンターを、伏木の歴史や地域のことを学び、思い出や情報を共有できる場とする。
- ・広場や公園を活かし、住民がやってみたいことを実現できる、イベントや活動の場をつくる。

### 将来イメージ



## ★広域的な取り組み

### 目指す姿

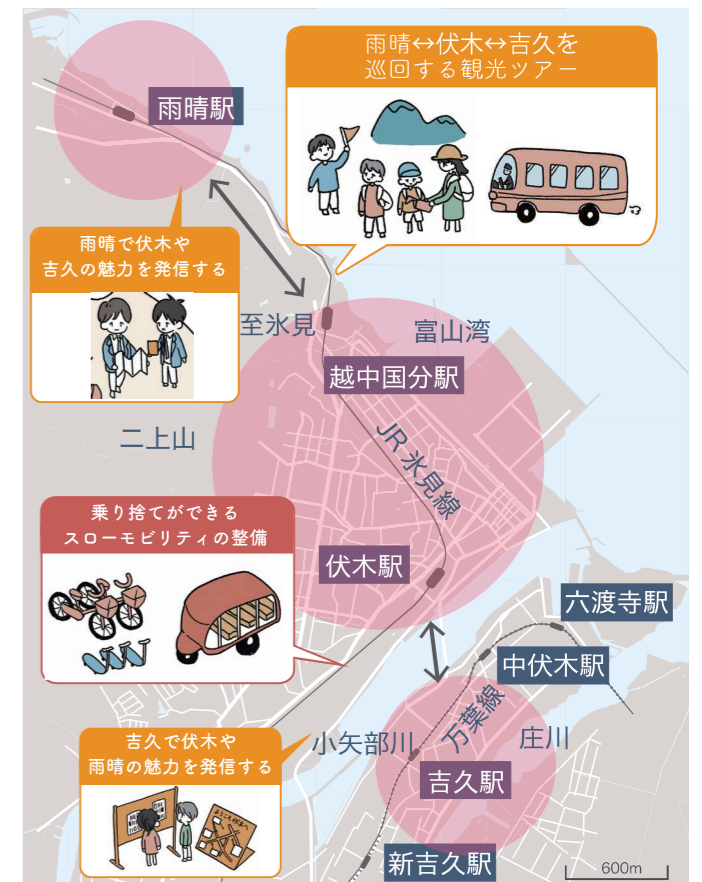
**周辺地域と連携し、人の往来が生まれる広域のつながりをつくる**

### エリアの特徴

- ・近くに雨晴海岸や、重要伝統建築物群保存地区に指定されている吉久地区など、観光客が足を運ぶ場所がある。
- ・周辺スポットへのアクセスや回遊性に課題があり、これらの場所同士の連携が十分に見られない。

### エリアの方向性

- ・レンタサイクルなどの二次交通を整備し、周辺地域を含めた回遊性を高める。
- ・周辺地域と連携し、それぞれの地域の魅力を発信していく。
- ・周辺地域も含めた観光ツアーなど、連携した取り組みを行う。



# 伏木地区ってどんなところ？

## 所在地

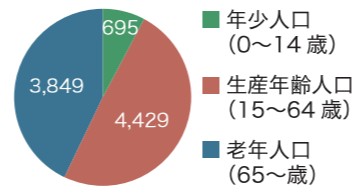


広域地図



伏木地区地図

人口 **8,973人**  
(2025年12月現在)



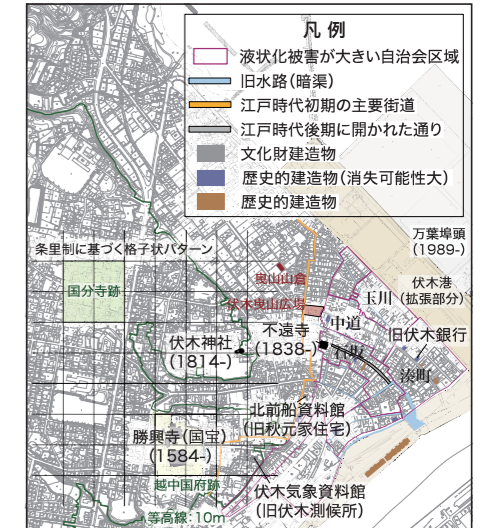
\*高岡市令和7年12月地区別・年齢別人口より

伏木地区は富山県北西部、高岡市の北東端に位置し、東側を富山湾、西側を小矢部川に挟まれた、海と河川に面した地区です。

## まちの成り立ち

伏木地区には、港を核に中心地を移しながら発展してきた、約1300年の歴史があります。始まりは奈良時代、万葉歌人でもある大伴家持が越中国守として赴任した時代です。当時のまちは現在の勝興寺から北西方向、標高約10mの台地にあり、国府や国分寺を中心に「条里制」による区画が広がっていました。戦国時代には、戦乱で焼失した勝興寺が国府跡地にて再建されたことで、寺院中心の「寺内町」へと中心が移り、江戸後期から明治に

は北前船の寄港地として黄金期を築きました。また、明治期の大火や海岸浸食を機に、伏木神社や不遠寺が現在の場所で再整備され、市街地の原型が形作られました。その後、20世紀初頭に近代港としての役割を確立する一方、大火後の復興過程で、土蔵造りのしっくい塗りの防火仕様の寺院や洋風建築など、多様な様式が伏木の風景を彩るようになりました。こうした各時代の繁栄の跡が重層的に残っていることが、伏木地区の魅力の一つです。



1300年にわたる伏木のまちの広がり

[主な参考文献]  
 ・「伏木港/ふしき(各年代)」、「藤井家文書」他、高岡市立伏木図書館所蔵郷土資料  
 ・高岡市教育委員会、「越中勝興寺伽藍」、1994年  
 ・富山県教育委員会、「越中国分寺とその周辺の遺跡調査報告書」、1967年  
 ・正和勝之助、「越中伏木地理志稿」、桂書房、1991年

# 震災後のまちの現状

令和6年能登半島地震により、伏木地区は震度5強の揺れに襲われ、特に沿岸部に近い9自治会を中心に、甚大な被害が発生しました。盛土地や埋立地などで深刻な液状化が起き、建物の約半分が損傷、歴史ある建物や公民館も被災し、5日間の断水が発生しました。今も道路等の復旧工事は続いており、家の被害や地盤への不安から町を離れる人が増えています。こうした人口減少が進む中で、地域のコミュニティをどう守るかという切実な課題にも直面しています。一方で、形を変えて営業を続ける商店や、新しく店を出す動きなど、前向きな変化も生まれています。



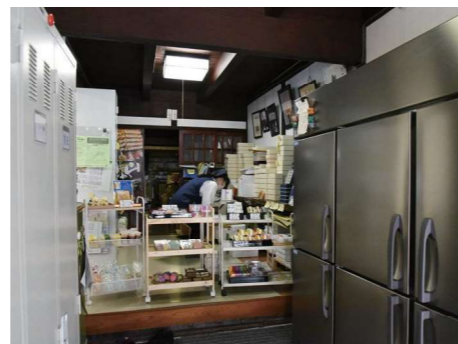
液状化被害によって傾いた建物



解体により広がる空き地

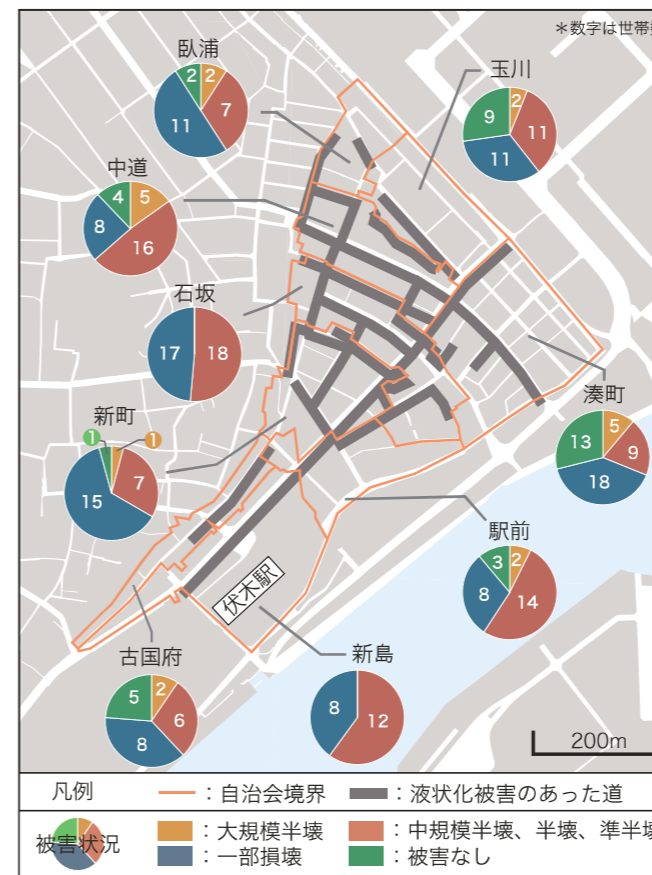


解体される旧伏木銀行



形を変え営業を続ける店舗

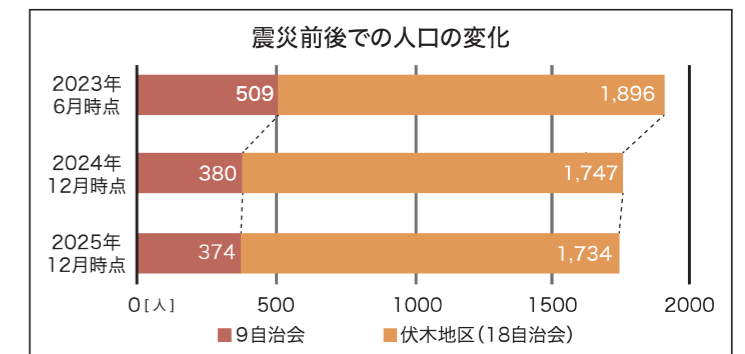
## 液状化による被害



\*大学実施のアンケート調査を元に作成(令和6年8月時点)。特に被害の大きかった9自治会(臥浦、玉川、中道、石坂、湊町、新町、駅前、古国府、新島)を対象とし、回収数は286枚(回収率:67.5%)のうち、有効回答は283枚であった。

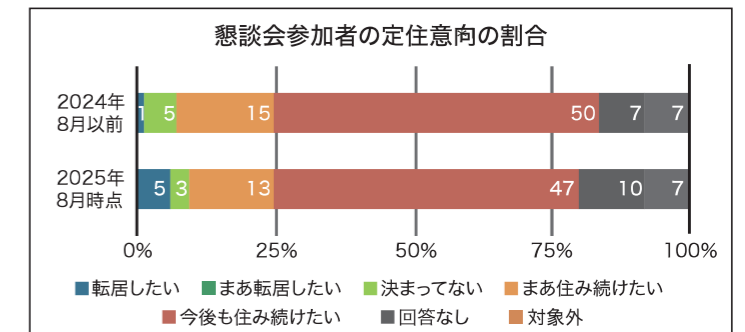
大学が実施した調査結果をもとに、能登半島地震による建物・道路の被害状況を、特に液状化被害の大きかった9自治会を対象にまとめました。液状化による被害は、外見からは被害状況が分かりづらい特性上、9自治会全体として、中規模半壊や一部損壊が多くみられる結果となりました。

## 震災による人口減少



\*伏木校下連合自治会提供資料「震災前と震災後の世帯数推移」より  
 被災後、伏木地区全体の人口は約10%弱、液状化被害が大きかった9自治会の人口は約20%の人口が減少しました。

## 伏木に住み続けたい人が多い



## 定住意向の理由

- ・地域への愛着があるため
- ・出生地であるため
- ・祭り(獅子舞・けんか山等)への関わりがあるため
- ・住宅への愛着があるため
- ・転居の金銭的余裕がないため... など

\*1 大学実施のアンケート調査を元に作成(令和7年8月時点)。第一回伏木まちづくり懇談会参加者を対象とし、回収数は85枚であった。  
 \*2 定住意向の理由として選択された回答の内、多かった回答5つを掲載。

# 伏木に生きる私たちの想い

懇談会に参加した方々に、伏木のまちや、復興への想いを伺いました。



伏木で暮らす人

## 住民が主体となり、暮らしの再生を成し遂げたい

震災後、解体と工事が続き、店はまるで工事現場の中にあるようです。インフラ復旧は不可欠ですが、それだけでは人も商いも消えてしまいます。その危機を強く感じています。だからこそ住民が主体となり、学生の皆さんの力と共に、暮らしの再生を成し遂げたいです。



伏木で暮らす人

## 伝統を守り、次の世代が住みたいまちへ

震災を経験したからこそ、人が集い、助け合える強い地域を築いていきたいと思っています。地域の象徴である伏木曳山祭の伝統を守りながら、新しい力も取り入れ、次の世代が住みたいと思える伏木の未来をつくっていききたいと考えています。



伏木で暮らす人

## 守るだけではなく仕掛ける場所へ

変わらない安心も大切ですが、少しの違和感や挑戦がある方がまちは面白い。伏木が“守るだけでなく仕掛ける場所”になれば嬉しいです。



伏木で暮らす人

## 「本音」に帰ることのできるまちへ

伝統と革新のバランスが保たれようとしているなかで、期待の声から諦めがこぼれて、不安の隙間から笑い声が漏れる。日々を暮らす方も、懐かしい空気に誘われ帰省した方も、誰もが肩の力を抜いて「本音」に帰ることのできるまちを想像しています。



伏木で暮らす人

## 復興とは、未来を見据えた計画と発信

公費解体が進み、空き地が増えて街の景色が一変しました。道路復旧などインフラ整備は進んでいますが、住人の転居は増加し、まちの活気が失われています。液状化対策にも相当の期間が必要で、まちを出た人が戻ってくる可能性は低いと思います。20年後、30年後の将来を見据えた計画を立て、それを広く発信する。それにより、新たに移り住み、商売を始める人が現れることが、本当の意味での復興だと思います。



伏木で暮らす人

## 歴史を繋ぐまちへ

たくさんの歴史を繋いできたこの伏木には、これまで営んできた人々の想いも詰まっています。そして震災を機に、皆さんと話し合う機会が増えました。伏木が住みやすい町になると同時に、いかにこの歴史を次の世代に繋いでいくかを、皆さんと学びながら、考えていきたいと思っています。



伏木を離れて暮らす人

## 震災を機に見えてきたまちの姿を残したい

震災からの2年でいろいろなものがなくなり、いろいろなものがあらわになった気がします。古いものや新しいもの、知らなかったことや知りたくなかったこと、そのどちらともつかないものなど。せっかく顕在化したまちの姿なので、広く長く残ってほしいです。



伏木に関わる高校教諭

## 地域に住む方々と共に、よりよい未来を共創したい

伏木は古くから、歴史や文化、産業などが発達し、様々なものの素地が揃っているところ。地域に住む方々と共に、よりよい伏木の未来を創っていけたらと思います。



伏木に関わる高校生

## 自分の学びを復興に活かしたい

伏木は復興を前向きに考えておられる素敵な地区だと思います。高校のフィールドワークや懇談会を通して学んだことを生かして探究活動をし、復興のお力になりたいと考えています。



伏木に関わる大学生

## より良い伏木の未来を、住民の皆さんと考えていきたい

震災後、変わり続ける風景を目の当たりにしてきました。それでも、このまちを誇りをもって語るまちの方々の姿に心を打たれました。その想いが広がっていけば、伏木はきっと、復興を超えた未来へと歩みを進めていくことができると思います。私たち大学も、より良い伏木の未来に向けて、皆さんと共に考えていくことができればと思います。



2026年3月発行

発行 伏木地区復興ロードマップ推進委員会

制作 富山大学藪谷研究室・東京科学大学真野研究室

協力 高岡市